

株式会社中静工業所 エコアクション21

2020年度 環境経営レポート

対象期間:2020年6月1日～2021年5月31日



®環境省

エコアクション21
認証番号 0002514



飯田事業所



下野工場



松野工場



高橋工場



内田事業所



九州佐賀工場

No	項目	頁
1.	環境経営方針	1
2.	事業概要	2-4
3.	環境経営目標とその実績	5-11
4.	主要な環境経営計画の内容	12
5.	環境活動内容（取組み状況）	13
6.	環境経営活動の取組結果の評価	14
7.	次年度の取組み内容	15
8.	環境関連法規等の取りまとめ	16
9.	環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	17
10.	代表者による全体評価及び見直し・指示	18

作成:2021年11月17日

rev: 211117

1. 環境経営方針

〔環境理念〕

株式会社中静工業所は、ハーネス等電装品の生産活動を通して、全員参加で環境保全活動に取り組む

〔基本方針〕

- (1) 環境保全活動は、次の項目を重点活動として継続的改善に取り組めます
 - ① 二酸化炭素排出量の削減
※電力使用量とガソリン・軽油投入量の削減
 - ② 廃棄物排出量の削減
※3R活動による廃棄物の削減
 - ③ 水道使用量の削減
※一般生活用水の節水意識向上
 - ④ 化学物質使用量の把握
※適正量の購入維持
 - ⑤ 環境に配慮した製品作りの推進
※梱包方法等の見直し、不良品率の削減
 - ⑥ 環境負荷削減と費用削減を両立
- (2) 環境関連法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します
- (3) 環境に配慮した製造活動を中心に、環境経営の継続的改善を実施します
- (4) 社内へは環境経営方針を全従業員に周知徹底を図り、社外へもHPを通じて環境経営レポートを開示します

制定：2008年 5月 10日

改定：2020年 6月 5日

株式会社中静工業所
代表取締役社長 名倉 光雄

2. 事業概要

(1) 組織の概要

2021年06月11日現在

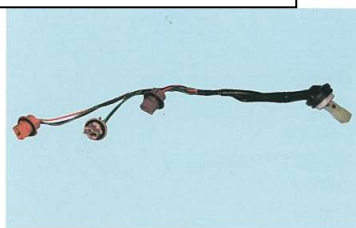
会社名	株式会社 中静工業所					
代表者	代表取締役社長 名倉 光雄					
資本金	6000万円					
売上高	46.1億(2020年6月～2021年5月)					
事業年度	期首 6月～期末 5月					
年間稼働日数	255日					
就業形態	1シフト					
就業時間	8:00～17:00					
従業員数(全社)	275人					
創業	1960年4月					
環境管理責任者	品証部 堀 剛輔					
事業所名	高橋工場 (本社・管理部)	飯田事業所	下野工場	松野工場	内田事業所	九州佐賀工場
事業所所在地	〒424-0043 静岡県清水区 永楽町11-89	〒424-0041 静岡県清水区 高橋3-7-43	〒424-0041 静岡県清水区 高橋3-7-50	〒421-3303 静岡県富士市 南松野296-1	〒424-0008 静岡県清水区 押切1108-8	〒849-0903 佐賀県佐賀市 久保泉町大字下 和泉1859-10
設立	1979年3月	1995年3月	1986年12月	2007年5月	1991年7月	2017年8月
従業員数(工場)	47	63	60	59	6	40
敷地面積	1087㎡	796㎡	998㎡	2273㎡	855㎡	3425㎡
建物面積	1395㎡	1378㎡	1390㎡	1352㎡	614㎡	1988㎡
工場長	山本 昌弘	魚取 勝英	溝口 浩幸	望月 重男	(兼)魚取 勝英	古賀 健一郎
副環境管理責任者	竹下 慎一	山田 茂芳	望月 宏樹	鈴木 洋佑	長澤 亮	石橋 正二郎

(2) 製品の概要

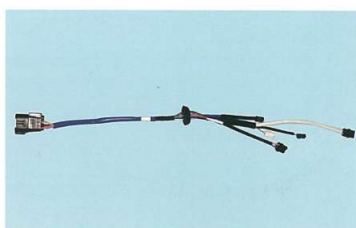
ハーネス等の電装品

家電用(冷蔵庫・エアコン等)及び自動車のランプ関係を中心とした、ハーネス品・樹脂成形品

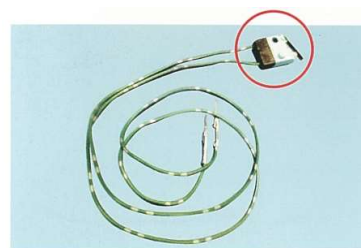
自動車用ハーネス



リアコンビランプ用ハーネス



ヘッドライト用ハーネス

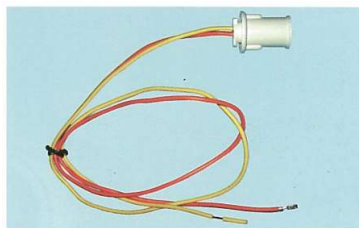


ホットメルトモールドスイッチハーネス

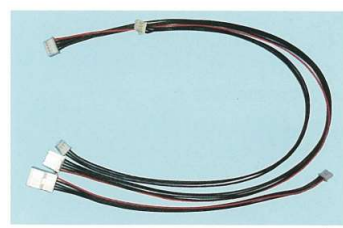
家電用ハーネス



冷蔵庫用ハーネス

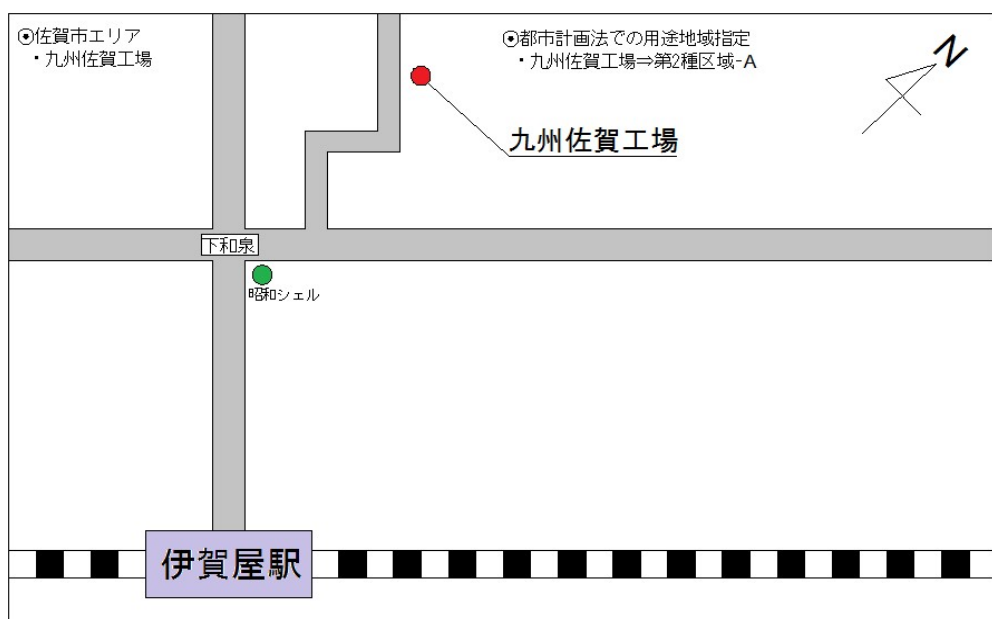
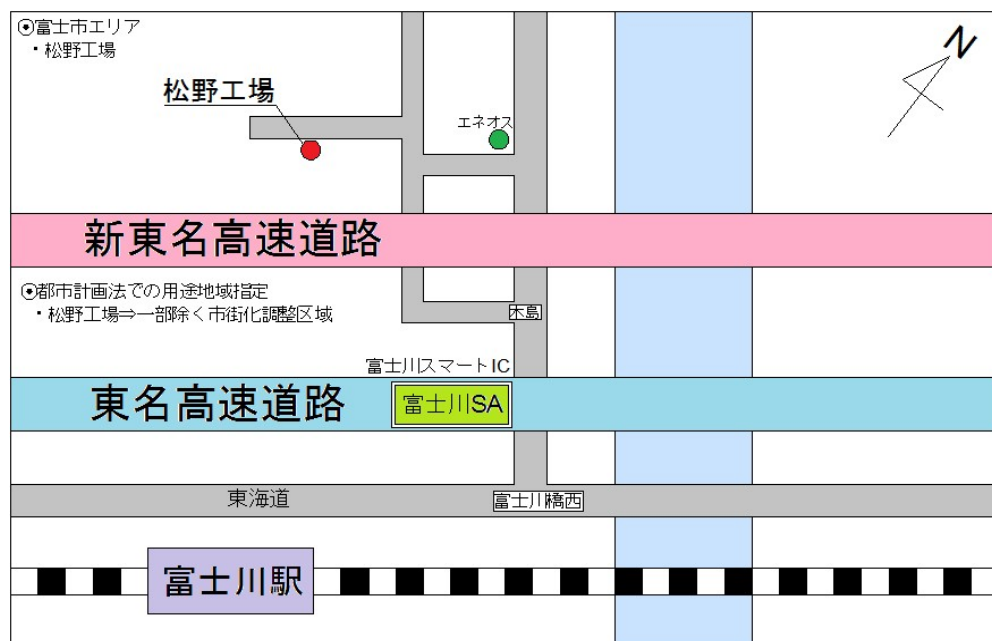


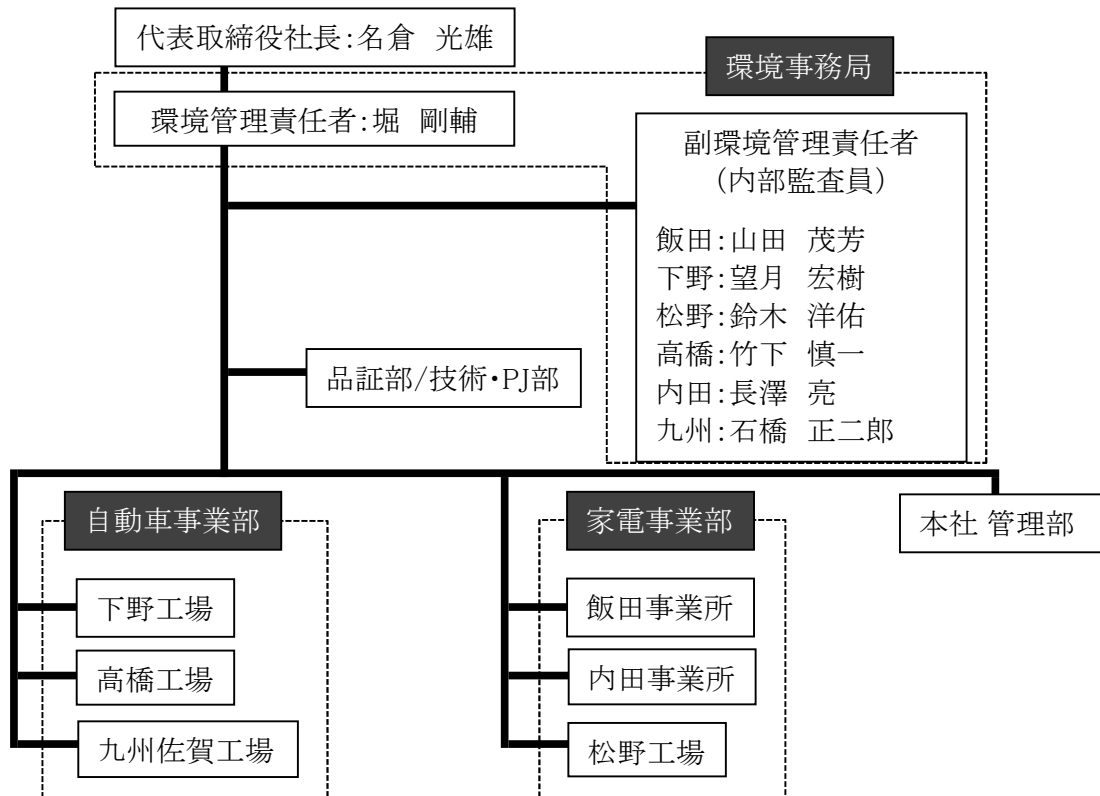
冷蔵庫用ランプソケット



エアコン用ハーネス

(3) 敷地概要





[役割分担]

①社長

- 環境経営システムの構築、及び全体の評価と見直し・指示
- 環境管理責任者、副環境管理責任者の任命
- 環境経営方針・環境経営目標の決定、及び見直し
- 環境経営計画の承認
- 環境経営システムの構築・運用・維持に必要な経営資源(人材・設備・資金等)の準備
- 緊急事態発生時の統括
- 実施体制の構築

②環境管理責任者

- 環境経営システムを確立し、実施・維持管理を継続的に運用
- 環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画の立案
- 環境経営計画の推進状況把握と社長への報告
- 環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況の把握と管理
- 環境経営システムに関する規定類の整備
- 運用管理、監視・測定、記録管理の統括
- 社長へ環境経営システム見直しに必要な情報を提供
- 年間の教育・訓練計画の作成
- 教育教材の調達

③工場長

- 緊急事態発生時の対応と報告
- 問題等発生した際に、是正及び予防措置の対応指導
- 環境経営計画の推進と必要とする資源の準備

④副環境管理責任者 兼 内部監査員(各工場から1名選任)

- 環境教育・訓練の実施と記録
- 環境経営目標、環境経営計画の立案
- 環境経営方針と環境経営計画に沿い、環境経営活動の啓蒙活動
- 運用管理、環境管理責任者へ環境に関する情報の提供
- 環境経営計画の推進状況把握と工場長への報告
- 内部監査の定期的な実施と結果の評価と是正の展開

⑤従業員

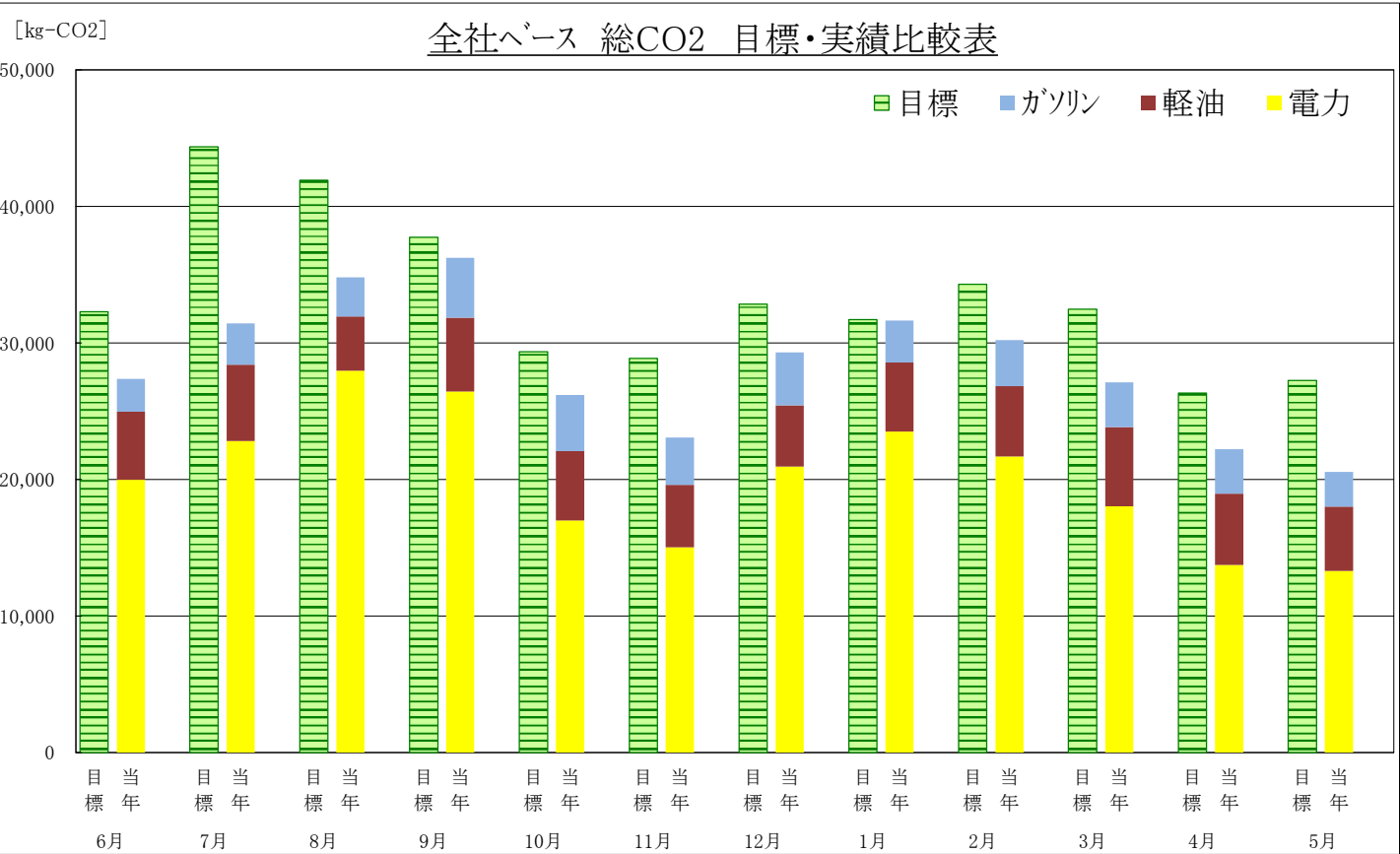
- 環境経営方針と環境経営計画に沿い、環境経営活動の実施

3. 環境経営目標とその実績 < 全社ベース >

※1. CO2排出係数の設定
①電力 0.443kg-CO2/KWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l
①は電気事業者排出係数-平成27年度実績-より購入4社の係数に対し各使用率を乗算し加算した合計値を共通数値とし設定
②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1及び別表第5」より選定
※2. 総CO2は電力+軽油+ガソリンとする ①灯油(ストーブ)は電力(エアコン)へ切り替え ②LPGは使用頻度が少ない為解約

【目標】2017年度(2017.06～2018.05)を基準とし
2018年度=-1%、2019年度=-2%、2020年度=-3%を目標値とする

項 目	基準年	2020年度目標		単位	2020年度 月別実績 (2020.06～2021.05)														累計
	2017	削減率	年計		月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5		
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	411,807	3%	399,452	kg-CO2	基準	33,285	45,737	43,223	38,895	30,262	29,775	33,856	32,689	35,357	33,484	27,141	28,101	411,807	
					月目標	32,286	44,365	41,927	37,728	29,354	28,882	32,841	31,709	34,297	32,480	26,327	27,258	399,452	
					当年	27,377	31,438	34,818	36,241	26,199	23,063	29,299	31,645	30,212	27,125	22,223	20,559	340,198	
電力 CO2排出量 排出係数＝ 0.443	293,612	3%	284,803	kg-CO2	月目標	22,370	33,617	32,423	27,859	19,999	19,406	23,535	23,619	25,068	21,993	17,021	17,894	284,803	
					当年	19,997	22,824	27,970	26,449	17,003	15,046	20,968	23,520	21,695	18,037	13,761	13,297	240,567	
軽油 CO2排出量 排出係数＝ 2.580	72,214	3%	70,048	kg-CO2	月目標	5,989	6,389	5,756	6,151	5,839	5,991	5,448	4,958	5,668	6,464	5,528	5,866	70,048	
					当年	4,971	5,589	3,970	5,413	5,077	4,563	4,460	5,038	5,162	5,802	5,209	4,726	59,979	
ガソリン CO2排出量 排出係数＝ 2.320	45,981	3%	44,601	kg-CO2	月目標	3,928	4,358	3,748	3,717	3,517	3,484	3,857	3,132	3,561	4,023	3,778	3,498	44,601	
					当年	2,409	3,025	2,878	4,379	4,119	3,453	3,871	3,086	3,355	3,287	3,253	2,536	39,651	
事業系一般廃棄物 (焼却ゴミ)	2073	3%	2,011	kg	月目標	154	155	220	146	152	161	289	70	128	193	245	96	2,011	
					当年	126	186	118	187	185	263	203	163	166	191	193	126	2,107	
水使用量の削減 (上水道投入量)	生活用品での使用の為、目標値については定めず前年度と当年度の比較のみとする			m ³	前年		385		398		395		382		397		346	2303	
					当年		293		291		389		344		344		331	1992	
環境に配慮した製品作り	環境負荷物質 遅延なき対応				当年	環境負荷物質の対応 順次対応													

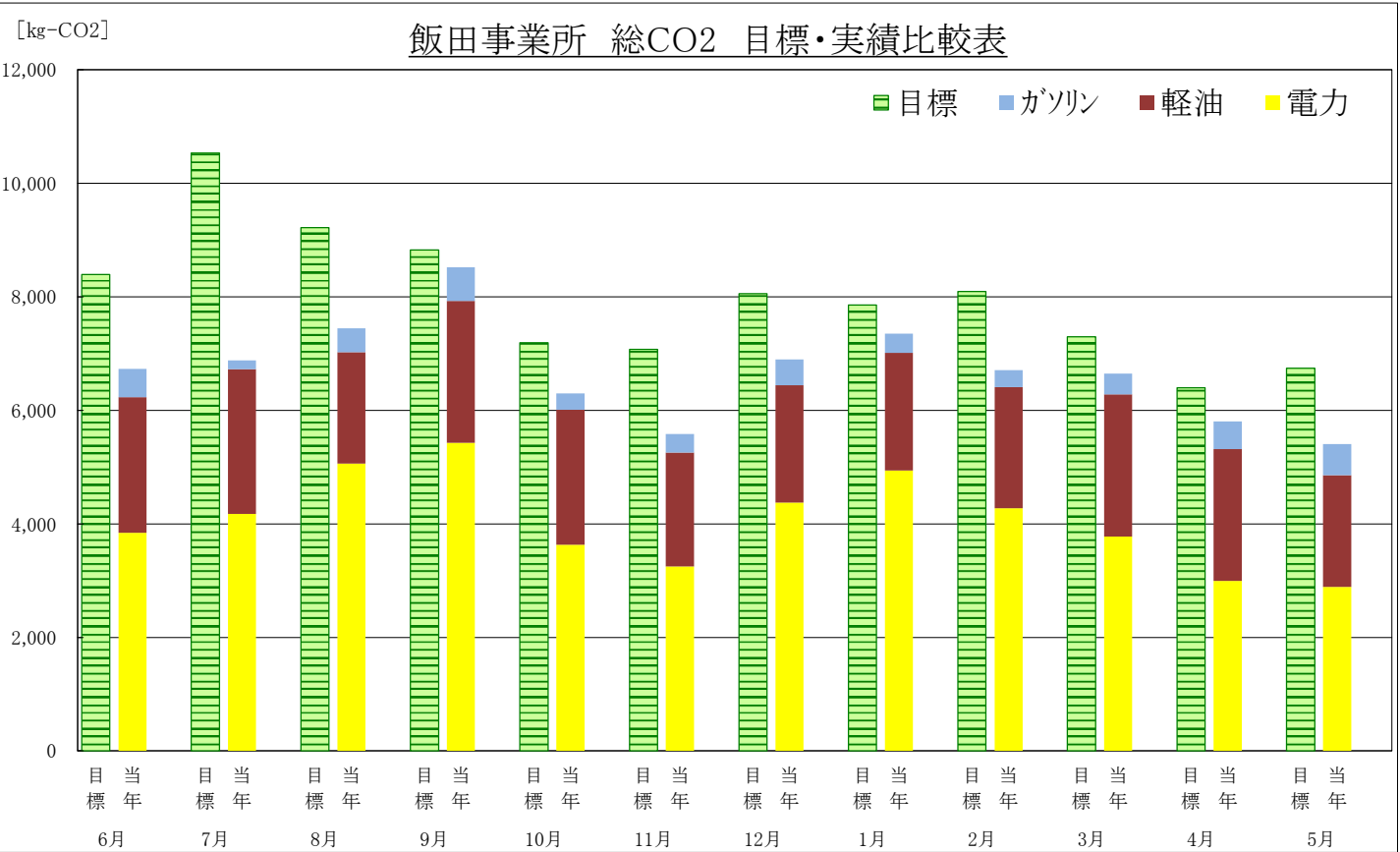


2020年度	目標達成率					結果	確認 (サイン)	評価 (問題点)	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却ゴミ	総CO2				
(第1期) 6～8月	124.9%	124.8%	144.8%	123.3%	126.6%	達成	9/25 永野	今年度より集計対象にガソリンを追加、LPGは解約のため除外 今期は工場の稼働が減っていたこともあり、全項目で目標達成	全社では達成となっているが、工場毎で見ると達成率は様々 今後、工場毎に特化した活動を強化し、内容・結果の情報共有を行う
(第2期) 9～11月	115.0%	119.5%	89.7%	72.4%	112.2%	達成	1/12 永野	増産傾向ではあったが総CO2目標達成 11月より費用低減を狙いに電力会社変更、費用だけでなく使用量低減にも取り組みたい	エアコン温度管理の具体化を進行中 夏/冬における必要以上の電力消費を抑えることで使用量低減に繋げる
(第3期) 12～2月	109.1%	109.6%	102.3%	91.4%	108.4%	達成	4/12 永野	総CO2目標達成 電力は目標(2017年度-3%)との比較では達成しており良好に見えるが、昨年度と比べると増加している	各工場にエアコンの目標設定温度と温度計を設置 現場毎に適切な温度を意識して頂き必要以上の電力消費を抑えることに繋がって欲しい
(第4期) 3～5月	126.2%	113.5%	124.5%	104.9%	123.1%	達成	7/12 永野	全ての項目で目標達成 大きな割合を占めている電力の達成率が高く良好 夏場へ向け消費電力を抑える予防が必要	消費電力が増加する夏場へ向け エアコン配管カバーの工事を実施(下野工場) デマンドのアラーム値を見直しピークカットに繋げ、消費電力、費用を抑える
年 間	118.4%	116.8%	112.5%	95.5%	117.4%	達成	7/12 永野	全ての期間で総CO2目標達成 項目別では焼却ゴミが未達となっているが、目標年にきちんと行われていなかった計量が定着し本来の姿が見えたためである	CO2排出量をより実感できるよう、工場毎の売上/人数/面積でのグラフ化を展開

3. 環境経営目標とその実績 <飯田事業所>

※1. CO2排出係数の設定
①電力 0.443kg-CO2/kWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l
①は電気事業者排出係数-平成27年度実績-より購入4社の係数に対し各使用率を乗算し加算した合計値を共通数値とし設定
②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1及び別表第5」より選定
※2. 総CO2は電力+軽油+ガソリンとする ①灯油(ストーブ)は電力(エアコン)へ切り替え ②LPGは使用頻度が少ない為解約

【目標】2017年度(2017.06～2018.05)を基準とし 2018年度=-1%、2019年度=-2%、2020年度=-3%を目標値とする				2020年度 月別実績 (2020.06～2021.05)															
項 目	基準年	削減率	2020年度目標 年計	単位	2020年度 月別実績 (2020.06～2021.05)														
	2017				月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	累計	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	98,623	3%	95,664	kg-CO2	基準	8,651	10,859	9,505	9,095	7,410	7,292	8,305	8,097	8,346	7,517	6,599	6,947	98,623	
					月目標	8,392	10,534	9,219	8,822	7,187	7,073	8,056	7,854	8,096	7,292	6,401	6,738	95,664	
					当年	6,734	6,882	7,444	8,521	6,299	5,581	6,899	7,354	6,707	6,649	5,804	5,407	80,282	
電力 CO2排出量 排出係数＝ 0.443	60,268	3%	58,460	kg-CO2	月目標	5,193	7,056	6,183	5,738	3,987	3,933	5,171	5,153	4,915	3,986	3,342	3,802	58,460	
					当年	3,842	4,178	5,064	5,426	3,630	3,250	4,372	4,941	4,274	3,776	2,999	2,891	48,642	
軽油 CO2排出量 排出係数＝ 2.580	27,676	3%	26,845	kg-CO2	月目標	2,097	2,560	2,252	2,307	2,332	2,360	2,125	1,884	2,250	2,568	2,067	2,042	26,845	
					当年	2,387	2,548	1,962	2,499	2,381	2,007	2,070	2,068	2,135	2,503	2,317	1,965	26,842	
ガソリン CO2排出量 排出係数＝ 2.320	10,679	3%	10,358	kg-CO2	月目標	1,102	917	784	776	868	780	760	817	932	738	992	894	10,358	
					当年	504	157	419	597	288	324	457	345	298	370	488	551	4,798	
事業系一般廃棄物 (焼却ゴミ)	808	3%	784	kg	月目標	54	60	47	63	80	61	81	49	47	121	56	65	784	
					当年	42	56	35	50	50	37	52	40	46	65	51	28	552	
水使用量の削減 (上水道投入量)	生活用品での使用の為、目標値については定めず前年度と当年度の比較のみとする			m ³	前年		162		217		174		96		112		99	860	
					当年		55		50		64		60		66		60	355	
環境に配慮した製品作り	環境負荷物質 遅延なき対応				当年	環境負荷物質の対応 順次対応													

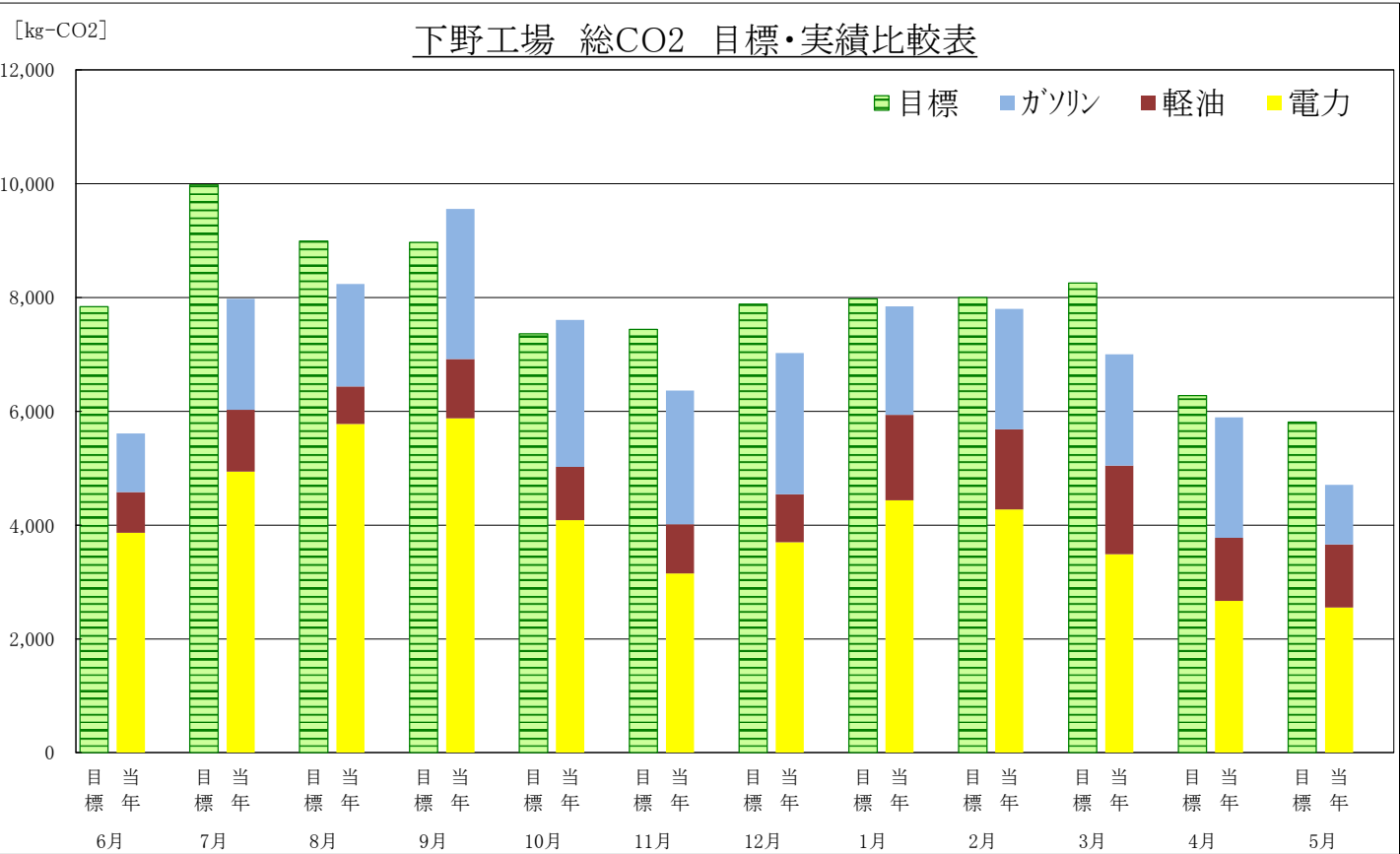


2020年度	目標達成率					結果	確認 (サイン)	評価(問題点)	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却ゴミ	総CO2				
(第1期) 6～8月	140.9%	100.2%	259.6%	121.1%	133.6%	達成	9/25 山田	すべての項目で目標達成 自動車圏の減産が影響している、生産が戻る前に達成率が低い軽油に対し予防が必要	10月より生産が例年並みに戻ってくる傾向があるため適切な在庫管理を行い、臨時便を抑えるように対応していく
(第2期) 9～11月	111.0%	101.6%	200.5%	148.7%	113.1%	達成	1/13 山田	すべての項目で目標達成 自動車圏の生産の減産が影響している 家電圏生産増加に伴い残業時間増加に伴う電力消費抑制策が必要	室内温度でエアコン稼働のルールを検討 照明のLED化を進め、電力の低減に努める
(第3期) 12～2月	112.2%	99.8%	228.0%	127.9%	114.5%	達成	4/14 山田	軽油以外の項目は目標達成 内職者の増員や倉庫への引取回数増加により軽油使用量が増加している	燃費が悪くなる運転をしないように呼びかけを行い各ドライバーの意識向上に努める 継続し照明のLED化を進め、電力の低減に努める
(第4期) 3～5月	115.2%	98.4%	186.2%	168.4%	114.4%	達成	7/16 山田	軽油以外の項目で目標達成 内職者増員に伴い軽油使用量が増加しているため集配便のルート見直し等の検討が必要	ドライバーのエコドライブへの意識向上を継続し呼びかける 照明のLED化を進め電力低減も継続していく
年 間	120.2%	100.0%	215.9%	142.0%	119.2%	達成	7/16 山田	すべての項目で目標達成 軽油がぎりぎり達成のため対策の検討が必要 電力はコロナ感染での減産影響があったが、具体的な策を検討し低減活動をする必要あり	集配便の見直し、エコドライブの意識向上を呼びかけ軽油使用量の低減をしていく 昼休憩時のコンプレッサ停止を習慣化出来る様呼びかけを行い電力消費低減をしていく

3. 環境経営目標とその実績 < 下野工場 >

※1. CO2排出係数の設定
①電力 0.443kg-CO2/KWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l
①は電気事業者排出係数-平成27年度実績-より購入4社の係数に対し各使用率を乗算し加算した合計値を共通数値とし設定
②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1及び別表第5」より選定
※2. 総CO2は電力+軽油+ガソリンとする ①灯油(ストーブ)は電力(エアコン)へ切り替え ②LPGは使用頻度が少ない為解約

【目標】2017年度(2017.06～2018.05)を基準とし 2018年度=-1%、2019年度=-2%、2020年度=-3%を目標値とする					①は電気事業者排出係数-平成27年度実績-より購入4社の係数に対し各使用率を乗算し加算した合計値を共通数値とし設定 ②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1及び別表第5より選定 ※2.総CO2は電力+軽油+ガソリンとする ①灯油(ストーブ)は電力(エコポ)へ切り替え ②LPGは使用頻度が少ない為解約														
項 目	基準年	2020年度目標		単位	2020年度 月別実績 (2020.06～2021.05)														
	2017	削減率	年計		月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	累計	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	97,698	3%	94,767	kg-CO2	基準	8,079	10,283	9,268	9,243	7,587	7,670	8,125	8,224	8,250	8,509	6,469	5,992	97,698	
					月目標	7,837	9,975	8,990	8,966	7,360	7,440	7,881	7,977	8,002	8,253	6,275	5,812	94,767	
					当年	5,612	7,976	8,241	9,556	7,605	6,367	7,024	7,844	7,800	7,002	5,895	4,707	85,630	
電力 CO2排出量 排出係数 = 0.443	61,219	3%	59,382	kg-CO2	月目標	4,870	6,389	6,131	5,974	4,576	4,438	5,118	5,142	5,288	4,879	3,293	3,283	59,382	
					当年	3,865	4,938	5,774	5,875	4,086	3,147	3,699	4,436	4,274	3,493	2,670	2,553	48,808	
軽油 CO2排出量 排出係数 = 2.580	19,562	3%	18,975	kg-CO2	月目標	1,644	1,742	1,574	1,677	1,547	1,712	1,401	1,557	1,514	1,614	1,599	1,394	18,975	
					当年	715	1,089	663	1,044	936	867	839	1,505	1,407	1,553	1,107	1,106	12,831	
ガソリン CO2排出量 排出係数 = 2.320	16,918	3%	16,411	kg-CO2	月目標	1,323	1,844	1,284	1,315	1,237	1,289	1,362	1,278	1,200	1,760	1,383	1,135	16,411	
					当年	1,033	1,949	1,804	2,638	2,583	2,354	2,486	1,902	2,120	1,957	2,119	1,048	23,991	
事業系一般廃棄物 (焼却ゴミ)	116	3%	113	kg	月目標	4	30	2	2	14	9	11	8	4	16	11	4	113	
					当年	58	86	60	103	100	105	93	99	86	96	96	70	1,050	
水使用量の削減 (上水道投入量)	生活用品での使用の為、目標値については定めず前年度と当年度の比較のみとする			m ³	前年		77		87		74		77		83		75	473	
					当年		63		72		97		84		89		85	490	
環境に配慮した製品作り	環境負荷物質 遅延なき対応				当年	環境負荷物質の対応 順次対応													

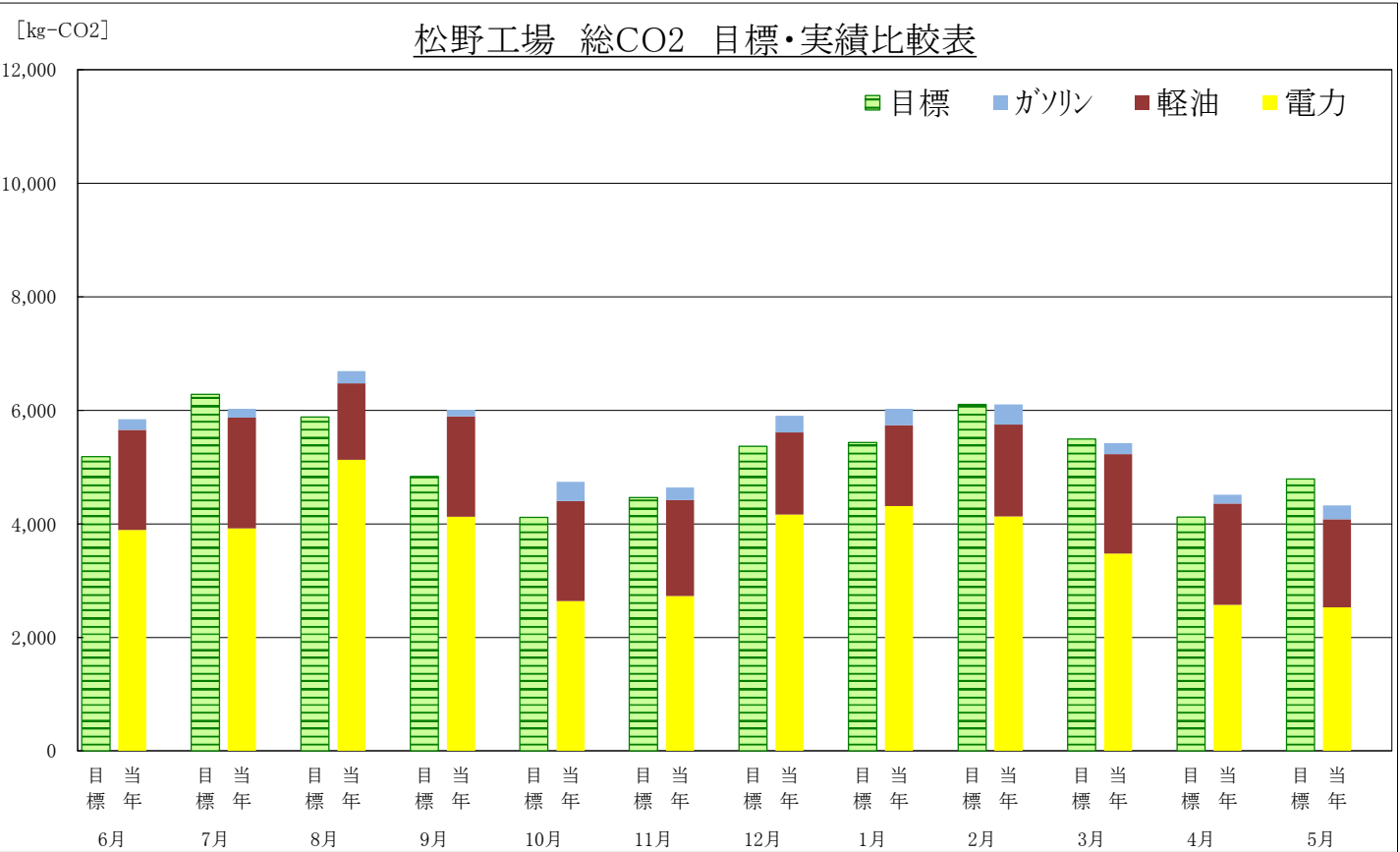


2020年度	目標達成率					結果	確認 (サイン)	評価 (問題点)	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却ゴミ	総CO2				
(第1期) 6～8月	119.3%	201.1%	93.0%	17.6%	122.8%	達成	9/25 望月ひ	コロナ禍による社休日の設定し、内職便を縮小し、ムダな集配を無くした結果、軽油達成率UPへと繋がったと感じております	9月以降、自動車圏は挽回生産が始まります 臨時便・残業の発生を極力抑えて、増産対応に下野工場内で、生産計画・内職強化をしていく
(第2期) 9～11月	114.4%	173.3%	50.7%	7.9%	101.0%	達成	1/6 望月ひ	9月以降、自動車圏の大幅増産、コロナ禍の影響による挽回生産が開始され、更に日々の追加情報もあり、臨時便も増 総CO2は達成できたが、達成率ギリギリであった(9月単月においては未達)	急激な増産対応と新規立ち上がり製品もあり、9月にCO2排出量UP 新規内職を9月・11月に募集し計40名程立上 残業・臨時便の発生を抑制し、CO2排出量の増加を抑えた
(第3期) 12～2月	125.3%	119.2%	59.0%	8.1%	105.3%	達成	4/1 望月ひ	製品によって生産レベルUP有り、臨時便多用によるガソリン使用量増となってしまう 但し、時間外業務が増となる事なく、納期対応できた為、全体CO2排出量は達成できた	増産と新製品対応に、引き続き新規内職者の増員と高齢化した内職者の若返りを図り、社内作業を低減 残業時間は基本、17:30までと規制
(第4期) 3～5月	131.4%	122.3%	83.5%	11.5%	115.5%	達成	7/5 望月ひ	半導体入手困難の煽りを受け、大幅減産が続く CO2排出量が減った事で、目標が達成 集配便の見直しをし、別便であった2つの便を統合し、走行距離の低減を実施	生産の減産理由に、CO2排出量の低減を頼らず、梅雨から初夏に向けての、エアコン使用について、電力量がUPし過ぎない様、注意喚起していく
年 間	121.7%	147.9%	68.4%	10.7%	110.7%	達成	7/5 望月ひ	コロナ禍と半導体不足により、生産の大幅減少 新製品の立上もあり、負担が有りながらも、ムダな残業を減らし、休憩時間・帰宅時の蛍光灯消灯の習慣ができていた	ゴミの分別について、理解度が足りない 「環境ワンポイントレッスン」等の教育ルールを有効に活用し、繰り返し指導し、分別への理解度UPをしていく

3. 環境経営目標とその実績 <松野工場>

※1. CO2排出係数の設定
①電力 0.443kg-CO2/KWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l
①は電気事業者排出係数-平成27年度実績-より購入4社の係数を乗算し加算した合計値を共通数値とし設定
②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1及び別表第5」より選定
※2. 総CO2は電力+軽油+ガソリンとする ①灯油(ストーブ)は電力(エアコン)へ切り替え ②LPGは使用頻度が少ない為解約

【目標】2017年度(2017.06～2018.05)を基準とし 2018年度=-1%、2019年度=-2%、2020年度=-3%を目標値とする				①は電気事業者排出係数=平成27年度実績より購入4社との係数を各使用率を乗算し加算した合計値を共通数値とし設定 ②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1及び別表第5より選定 ※2.総CO2は電力+軽油+ガソリンとする ①灯油(ストーブ)は電力(エココ)へ切り替え ②LPGは使用頻度が少ない為解約															
項 目	基準年	2020年度目標		単位	2020年度 月別実績										(2020.06～2021.05)				
	2017	削減率	年計		月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	累計	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	63,987	3%	62,067	kg-CO2	基準	5,347	6,474	6,062	4,981	4,242	4,600	5,535	5,601	6,294	5,662	4,249	4,940	63,987	
					月目標	5,186	6,280	5,880	4,832	4,114	4,462	5,369	5,433	6,105	5,492	4,121	4,791	62,067	
					当年	5,847	6,027	6,695	6,013	4,741	4,638	5,906	6,027	6,105	5,420	4,517	4,323	66,258	
電力 CO2排出量 排出係数 = 0.443	40,542	3%	39,326	kg-CO2	月目標	2,958	4,278	4,000	2,876	2,354	2,652	3,518	3,919	4,234	3,277	2,507	2,752	39,326	
					当年	3,892	3,919	5,132	4,125	2,644	2,729	4,167	4,316	4,132	3,481	2,573	2,531	43,642	
軽油 CO2排出量 排出係数 = 2.580	22,116	3%	21,452	kg-CO2	月目標	2,062	1,889	1,754	1,922	1,704	1,722	1,744	1,416	1,762	2,102	1,492	1,882	21,452	
					当年	1,765	1,952	1,345	1,767	1,759	1,689	1,443	1,424	1,620	1,745	1,784	1,551	19,845	
ガソリン CO2排出量 排出係数 = 2.320	1,329	3%	1,289	kg-CO2	月目標	167	113	126	34	56	88	106	97	110	113	123	158	1,289	
					当年	190	155	218	121	338	220	295	287	353	193	159	241	2,771	
事業系一般廃棄物 (焼却ゴミ)	392	3%	380	kg	月目標	63	35	41	28	28	23	41	14	32	24	32	19	380	
					当年	18	27	15	25	21	16	18	9	22	16	20	14	219	
水使用量の削減 (上水道投入量)	生活用品での使用の為、目標値については定めず前年度と当年度の比較のみとする			m ³	前年		59		76		94		66		80		80	455	
					当年				66		92		89		62		66		437
環境に配慮した製品作り	環境負荷物質	遅延なき対応			当年	環境負荷物質の対応 順次対応													



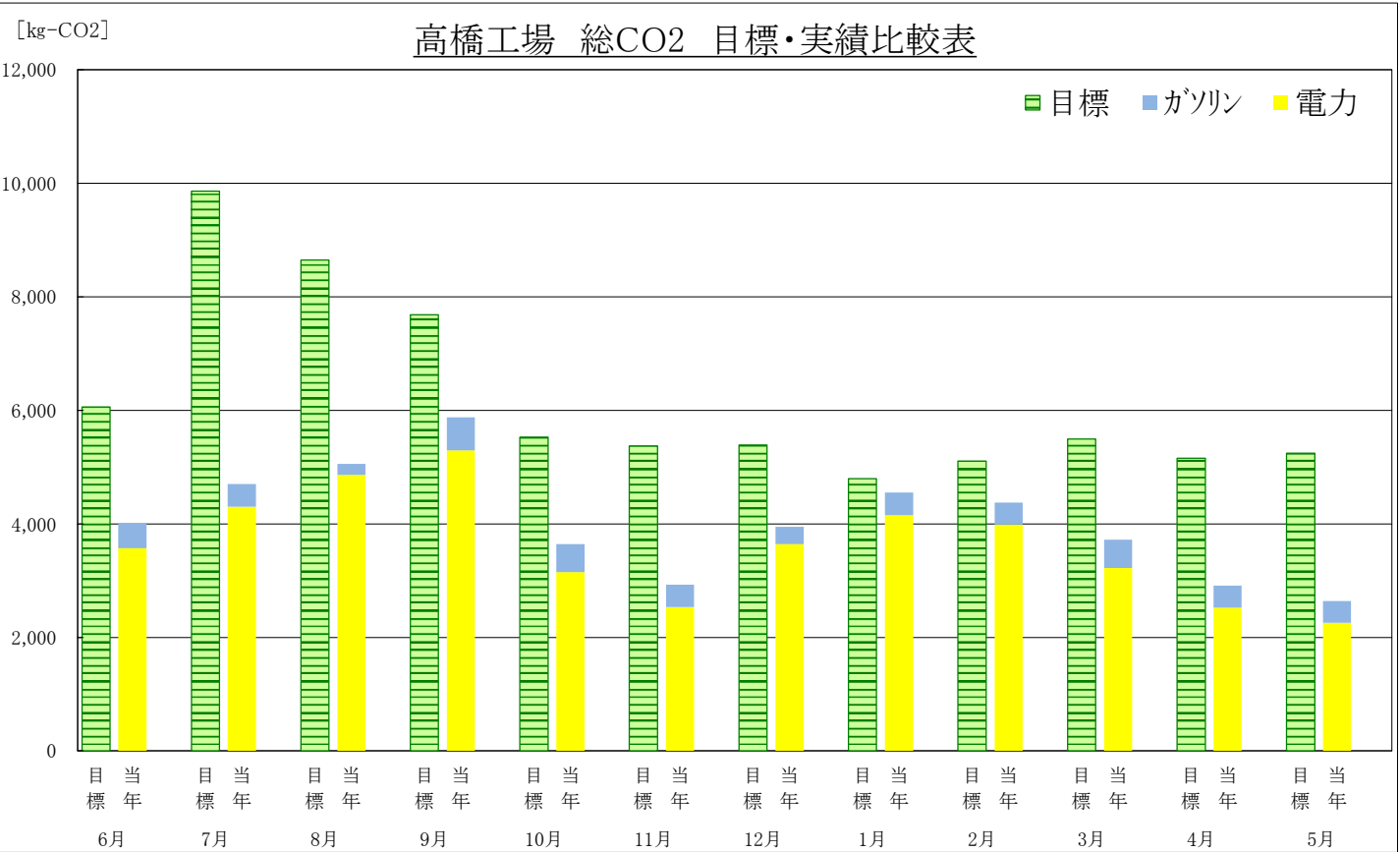
2020年度	目標達成率					結果	確認 (サイン)	評価 (問題点)	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却ゴミ	総CO2				
(第1期) 6～8月	86.8%	112.7%	72.0%	237.1%	93.4%	未達成	9/25 石川	8月は工場稼働日が少ないことから焼却ゴミの達成率が良い 内職集配エリアを見直し配送時間の短縮に繋げた事で、軽油の達成率が向上	今後も定期的に、内職集配エリアの見直しを行って軽油使用量の削減に努める
(第2期) 9～11月	83.0%	102.5%	26.2%	128.7%	87.1%	未達成	1/8 石川	ガソリンの目標達成率が特に低い 社用車プロボックスの走行距離は1期の約1.8倍、遠方の訪問が多かったのが原因	急発進、急停止など燃費が悪くなる運転をしないように呼びかけを行い軽油とガソリンの燃費向上に努める
(第3期) 12～2月	92.5%	109.7%	33.4%	178.7%	93.7%	未達成	4/15 早出	電力目標は未達であったが昨年同時期比で切断稼働1.6倍に対し最小限に抑えたと判断 ガソリンの達成率が非常に低い、ルート・手段を見直す必要がある	内職集配エリアの見直し継続 エコ運転の呼びかけを継続
(第4期) 3～5月	99.4%	107.8%	66.2%	151.3%	101.0%	達成	7/5 鈴木	CO2排出割合の高い電力が達成率100%に近づいている事が総合目標達成の大きな要因 出荷量の高い繁忙期だが、残業は18時(最長19時)電力消費を抑えている	久保田倉庫に物を出し入れする頻度が多く、短い距離だが社用車を頻繁に使用する 社員は荷物の積載量を考慮し、往復回数を極限まで削るよう努める
年 間	90.1%	108.1%	46.5%	173.9%	93.7%	未達成	7/5 鈴木	6～9月迄の電力消費が非常に多かった 総合目標値に近い9月と5月を比較、売上が高い5月が電力消費が少ない事実より、売上の低い月に消費を抑えられなかった事が問題	5月は冷房を稼働させておらず、9月は残暑で冷房を稼働させている(空調電力消費の差) エアコン稼働する際の温度設定、及びON・OFFのタイミングを社員が状況を見て適切に行う

3. 環境経営目標とその実績 <高橋工場>

※1. CO2排出係数の設定
①電力 0.443kg-CO2/KWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/l ③軽油 2.580kg-CO2/l
①は電気事業者排出係数-平成27年度実績-より購入4社の係数に対し各使用率を乗算し加算した合計値を共通数値とし設定
②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1及び別表第5」より選定
※2. 総CO2は電力+軽油+ガソリンとする ①灯油(ストーブ)は電力(エアコン)へ切り替え ②LPGは使用頻度が少ない為解約

【目標】2017年度(2017.06～2018.05)を基準とし
2018年度=-1%、2019年度=-2%、2020年度=-3%を目標値とする

項 目	基準年	2020年度目標		単位	2020年度 月別実績 (2020.06～2021.05)														
	2017	削減率	年計		月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	累計	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	76,652	3%	74,352	kg-CO2	基準	6,249	10,169	8,918	7,920	5,699	5,543	5,558	4,947	5,261	5,661	5,316	5,411	76,652	
					月目標	6,061	9,864	8,651	7,682	5,528	5,376	5,391	4,799	5,103	5,491	5,156	5,249	74,352	
					当年	4,006	4,701	5,057	5,875	3,645	2,929	3,947	4,549	4,371	3,720	2,909	2,644	48,353	
電力 CO2排出量 排出係数 = 0.443	73,007	3%	70,817	kg-CO2	月目標	5,815	9,546	8,430	7,254	5,294	5,066	5,068	4,565	4,806	5,180	4,846	4,946	70,817	
					当年	3,573	4,302	4,863	5,295	3,148	2,539	3,646	4,153	3,987	3,225	2,524	2,258	43,514	
軽油 CO2排出量 排出係数 = 2.580	0	3%	0	kg-CO2	月目標														
ガソリン CO2排出量 排出係数 = 2.320	3,645	3%	3,535	kg-CO2	月目標	246	317	221	429	234	310	324	234	297	311	310	302	3,535	
					当年	433	398	194	580	497	390	301	396	383	495	386	385	4,839	
事業系一般廃棄物 (焼却ゴミ)	370	3%	359	kg	月目標	0	0	97	0	0	39	116	0	0	0	107	0	359	
					当年	0	0	0	0	0	90	30	0	0	0	0	0	120	
水使用量の削減 (上水道投入量)	生活用品での使用の為、目標値については定めず前年度と当年度の比較のみとする			m ³	前年	70		70		66		67		65		65		403	
					当年	55		52		75		54		65		63		364	
環境に配慮した製品作り	環境負荷物質 遅延なき対応				当年	環境負荷物質の対応 順次対応													



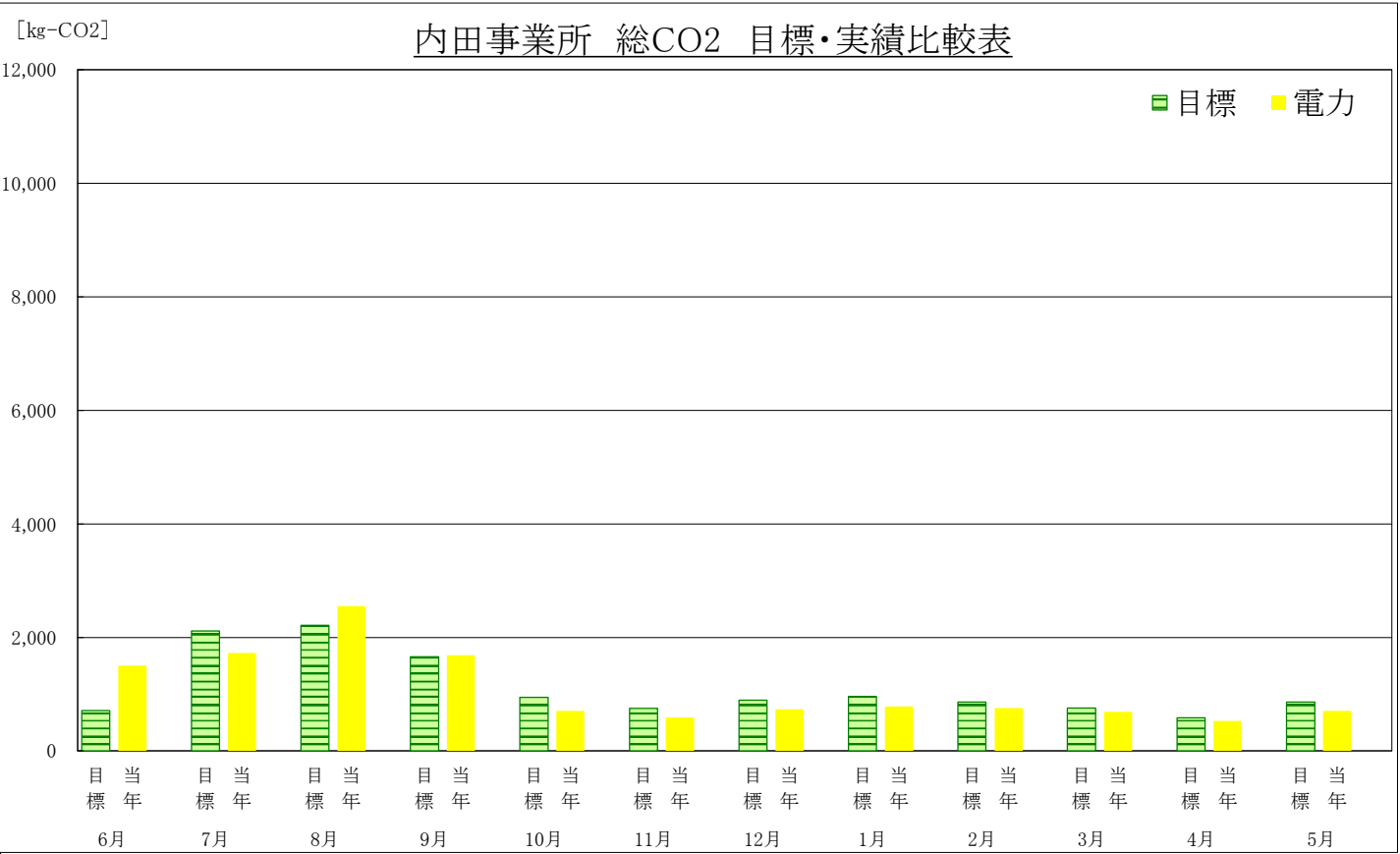
2020年度	目標達成率					結果	確認 (サイン)	評価(問題点)	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却ゴミ	総CO2				
(第1期) 6～8月	186.8%		76.5%	排出無し	178.6%	達成	9/25 竹下	コロナの影響により全体的な負荷が下がった結果、社休対応等が有り、CO2削減に繋がったこのような時期にできるCO2削減策を考案する必要がある	工場全体のレイアウト見直しを検討 作業スペースを1F2Fに集約し3Fを開けることで常に1707分のCO2削減が見込める
(第2期) 9～11月	160.4%		66.3%	43.1%	149.3%	達成	1/13 竹下	工場2F3Fのレイアウトを見直し作業スペース縮小に繋がったが、その際に廃棄物が多量になったため焼却ゴミは未達 内職便の増加に伴いガソリン使用量が増加	焼却ゴミについては一時的なものと判断 内職便は今後も増加予定になっているため、ガソリン使用量も増加と予測、低燃費で安全を考えた運転を呼びかける
(第3期) 12～2月	122.5%		79.1%	388.0%	118.9%	達成	4/15 竹下	レイアウト変更による3Fエリア未活用の効果により電力低減の効果が確認できた 予測通りガソリン使用量が増加しており第3期も未達、内職便の増加が影響している	内職便が増加しているが、今後の新製品の立ち上がりで更に内職便が増加すると予測 ルート見直しを検討し、効率化を図る
(第4期) 3～5月	187.0%		73.0%	排出無し	171.4%	達成	7/16 竹下	不在時の消灯、LED化、ライン改善等の継続的実施により電力使用量・総CO2の目標は達成 ガソリン使用量については第3期同様に内職便の増加が影響	集配ルートの見直しを実施したが、随時に新規集配先の増減があるため、ルート見直し頻度を上げ継続する
年 間	162.7%		73.1%	299.1%	153.8%	達成	7/16 竹下	年間を通じて総CO2の削減に貢献できた特に3Fのレイアウト変更の有効性が高かった ガソリン使用量は社有車の増加と内職便の増加が原因で年間未達	内職ルートの見直しと、運転中の燃費対策として「急加速・急発進」を撲滅するべく、教育を実施していく ゴミ分別の指導を継続的に実施する

3. 環境経営目標とその実績 <内田事業所>

※1. CO2排出係数の設定
①電力 0.443kg-CO2/KWh ②ガソリン 2.320kg-CO2/ℓ ③軽油 2.580kg-CO2/ℓ
①は電気事業者排出係数-平成27年度実績-より購入4社の係数に対し各使用率を乗算し加算した合計値を共通数値とし設定
②③は「算定省令第2条第3項、第4条第1項、別表第1及び別表第5」より選定
※2. 総CO2は電力+軽油+ガソリンとする ①灯油(ストーブ)は電力(エアコン)へ切り替え ②LPGは使用頻度が少ない為解約

【目標】2017年度(2017.06～2018.05)を基準とし
2018年度=-1%、2019年度=-2%、2020年度=-3%を目標値とする

項目	基準年 2017	2020年度目標 削減率	2020年度目標 年計	単位	2020年度 月別実績 (2020.06～2021.05)													累計
					月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	
総CO2排出量 (電力+軽油+ガソリン)	13,718	3%	13,306	kg-CO2	基準	732	2,177	2,284	1,710	974	775	923	992	886	780	599	886	13,718
					月目標	710	2,112	2,215	1,659	945	752	895	962	859	756	581	860	13,306
					当年	1,505	1,723	2,554	1,685	706	591	738	785	759	692	528	706	12,974
電力 CO2排出量 排出係数 = 0.443	13,718	3%	13,306	kg-CO2	月目標	710	2,112	2,215	1,659	945	752	895	962	859	756	581	860	13,306
					当年	1,505	1,723	2,554	1,685	706	591	738	785	759	692	528	706	12,974
軽油 CO2排出量 排出係数 = 2.580	0	3%	0	kg-CO2	月目標													
					当年													
ガソリン CO2排出量 排出係数 = 2.320	0	3%	0	kg-CO2	月目標													
					当年													
事業系一般廃棄物 (焼却ゴミ)	2	3%	2	kg	月目標	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
					当年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水使用量の削減 (上水道投入量)	生活用品での使用の為、目標値については定めず前年度と当年度の比較のみとする			m ³	前年		28		23		24		26		29		31	161
					当年		24		17		21		20		21		20	123
環境に配慮した製品作り	環境負荷物質	遅延なき対応			当年	環境負荷物質の対応 順次対応												



2020年度	目標達成率					結果	確認 (サイン)	評価(問題点)	是正措置及び予防措置
	電力	軽油	ガソリン	焼却ゴミ	総CO2				
(第1期) 6～8月	87.1%			排出無し	87.1%	未達成	9/25 長澤	チューブ切断の移設で環境が大きく変化 エアコンの台数が2台増えているため、未達成	エアコンの温度調整、不必要な電灯の消灯、 休憩時間の消灯を行い少しでも節電を 行っていく 電灯のLED化を進めていく
(第2期) 9～11月	112.5%			排出無し	112.5%	達成	1/12 長澤	不必要な電灯の消灯、休憩時間の消灯を行い、 10月・11月は達成となったが9月の消費が多く 期間全体にて未達成となった	なぜ9月が未達成だったのか算出された データの分析をする 電灯の消灯、休憩時間の消灯を再度徹底を行う 電灯のLED化を継続
(第3期) 12～2月	119.0%			排出無し	119.0%	達成	4/13 長澤	設備(ホットメルト成型機)の工場外移設により 消費電力が下がったことが影響し達成 設備移設による影響大きいので、引き続き 予防を進める	電灯の消灯、休憩時間の消灯を再度徹底を行う サーバー室のエアコンの稼働時間を見直し、確認を 行っていく
(第4期) 3～5月	114.0%			排出無し	114.0%	達成	7/8 長澤	不必要な電灯の消灯の効果と設備の移設の 影響が有り達成 生産の減産傾向に対し予防策を展開する 必要がある	半導体の不足による減産の影響により、チューブ 切断の残業時間が減っているため、コンプレッサー ・エアコンの早めの停止を徹底していく また、エアコンの温度・稼働時間の調整も行う
年 間	102.6%				102.6%	達成	7/8 長澤	今年度は、設備の移設による電力の削減が 大きかった 休憩時間の消灯や作業終了後の不必要な OA機器の停止も徹底できた	サーバーのエアコンの稼働時間調整が気候により 変えていく必要があるため、IoT(温度センサー) で対応できないか検討していく

4. 主要な環境経営計画の内容

承認	作成
2020.06.10	2020.06.10
名倉	堀

※ ■は新規取組の活動

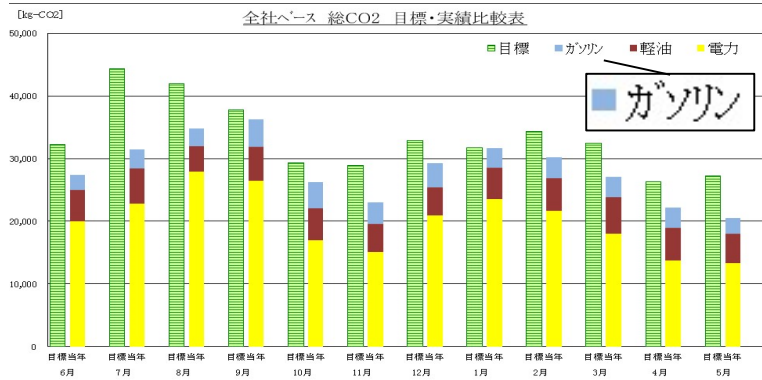
※ 計画 ■ 実行 ■

環境目標・環境経営計画の項目			具体的展開	推進責任者 推進担当者		2020年度 環境経営計画											
						6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
(1) 二酸化炭素排出量削減(kg-CO2) 電気使用量の削減																	
①	エアコンの適切な温度管理	目標設定温度:夏28℃・冬18℃	副環境責任者	計画 実績													
②	エアコンフィルター清掃	2週間に1回を目安	各工場設備担当者	計画 実績													
③	エアコン運転時間の管理	9時~16時	副環境責任者	計画 実績													
④	照明器具の間引き点灯徹底	巡回時等にチェック	副環境責任者	計画 実績													
⑤	休み時間消灯実施	昼・3時	全員	計画 実績													
⑥	休憩時コンプレッサー停止	昼	設備・切断部	計画 実績													
⑦	コンプレッサーのフィルター清掃	定期的な清掃実施	設備・切断部	計画 実績													
⑧	コンプレッサーの適切な圧力調整	定期的な確認	設備・切断部	計画 実績													
⑨	空調機器の買換検討	省エネタイプを優先に選定	社長・事務局 副環境責任者	計画 実績													
⑩	消費量の可視化	集計表の数値データをグラフ化	事務局	計画 実績													
(2) 二酸化炭素排出量削減(t) ガソリン、軽油投入量の削減																	
①	運行ルートの見直し	運行ルートの把握/見直し	工場管理者	計画 実績													
②	日常点検整備	点検表に基づき点検	全員	計画 実績													
③	駐停車時のアイドリングストップの徹底	表示/全体ミーティング等で呼びかけ	全員	計画 実績													
④	カーエアコンの適切な温度管理	表示/全体ミーティング等で呼びかけ	全員	計画 実績													
⑤	エコドライブ意識付け	社用車燃費一覧表配布	事務局	計画 実績													
⑥	消費量の可視化	集計表の数値データをグラフ化	事務局	計画 実績													
(3) 廃棄物排出量削減(kg)																	
①	裏紙の再利用徹底	掲示物/全体ミーティング等で呼びかけ	副環境責任者	計画 実績													
②	分別パトロールによる指導	掲示物/全体ミーティング等で呼びかけ	副環境責任者	計画 実績													
③	個人ゴミの持ち帰り徹底	掲示物/全体ミーティング等で呼びかけ	事務局 副環境責任者	計画 実績													
④	分別表示の見直し	分かり易い分別表示/見直し	事務局 副環境責任者	計画 実績													
⑤	廃プラスチック類の分別徹底	分かり易い分別表示/見直し	事務局 副環境責任者	計画 実績													
⑥	産業廃棄物一覧表の配布	集計表の数値データをグラフ化	事務局	計画 実績													
⑦	分別意識の向上	ゴミが地球に与える影響の教育	堀	計画 実績													
(4) 水使用量の削減(m ³)																	
①	蛇口のこまめな開閉	掲示物/全体ミーティング等で呼びかけ	事務局 副環境責任者	計画 実績													
②	節水の定期指導	全体ミーティング等で呼びかけ	副環境責任者	計画 実績													
③	トイレの節水対策	消音器の設置	副環境責任者	計画 実績													
④	節水意識の向上	リデュースを意識させる教育/掲示物	堀	計画 実績													
(5) 化学物質の適正量購入把握																	
①	適正購入量の把握	購入時に対応(現在、該当ナシ)		計画 実績													
(6) 環境に配慮した製品作り																	
①	環境負荷物質調査	負荷物質の調査	石塚S	計画 実績													
②	全員で環境を配慮	廃棄物の分別徹底	事務局 副環境責任者	計画 実績													
③	ECO検定	合格し体系的に環境を学ぶ	事務局 副環境責任者	計画 実績													
④	教育・訓練	環境会議等でテーマを選定し教育	事務局	計画 実績													
⑤	工場に特化した活動の活性化	所定のフォームに活動を記録し、環境会議で報告	事務局 副環境責任者	計画 実績													
活動コメント	6~8月	20.09.25 永野	今年度より工場に特化した活動を開始 四半期毎に環境会議にて情報展開 使用頻度がほとんど無かったLPガスを解約(昨年度CO2排出量:173kg-CO2)														
	9~11月	21.12.14 永野	有価物の範囲拡大(分別見直し) これまでは「キャリアカスとストリップカスの混合物」を埋立てごみとして捨てていたが、今後はリサイクル業者へ売却 環境面、経営面共に効果あり														
	12~2月	21.03.15 永野	全工場に温度計とエアコン目標設定温度の表示を設置 現場毎に温度を意識し、電気使用量の削減に繋がって欲しい														
	3~5月	21.06.16 永野	全社ベースでの総CO2排出量目標達成 次年度も有効性のある活動を継続し、新規取組みも行っていく														

5. 環境活動内容

(1) 二酸化炭素排出量削減(電気、ガソリン・軽油)

①購入量集計・削減目標対象にガソリンを追加、グラフを一新



②全工場へ温度計及び、エアコン目標設定温度を設置



(2) 二酸化炭素排出量削減(LPG解約)

②ガス代の費用低減

上記設備の撤去計画

1. 理由
(1) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。
(2) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。
(3) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。
(4) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。

2. 実施
(1) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。
(2) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。
(3) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。
(4) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。

3. 効果
(1) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。
(2) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。
(3) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。
(4) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。

4. 備考
(1) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。
(2) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。
(3) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。
(4) 2020年10月1日より、LPGの価格が大幅に上昇している。

全社がス設備の撤去完了、年間効果▲140,000円

(3) 工場に特化した活動を開始 四半期毎環境会議にて報告

2020年度	課題報告事項	飯田事業所に特化した活動
第1期 (6月～8月)	① 2020年度のCO2削減率 ② 2020年度のCO2削減率 ③ 2020年度のCO2削減率	① 2020年度のCO2削減率 ② 2020年度のCO2削減率 ③ 2020年度のCO2削減率
第2期 (9月～11月)	① 2020年度のCO2削減率 ② 2020年度のCO2削減率 ③ 2020年度のCO2削減率	① 2020年度のCO2削減率 ② 2020年度のCO2削減率 ③ 2020年度のCO2削減率
第3期 (12月～2月)	① 2020年度のCO2削減率 ② 2020年度のCO2削減率 ③ 2020年度のCO2削減率	① 2020年度のCO2削減率 ② 2020年度のCO2削減率 ③ 2020年度のCO2削減率
第4期 (3月～5月)	① 2020年度のCO2削減率 ② 2020年度のCO2削減率 ③ 2020年度のCO2削減率	① 2020年度のCO2削減率 ② 2020年度のCO2削減率 ③ 2020年度のCO2削減率

(2) 廃棄物排出量削減

①ゴミ分別の徹底



②有価物(リサイクル)範囲の拡大



(6) 環境掲示板をリニューアル(佐賀工場)



(7) 防災訓練



6. 環境経営活動の取組結果の評価

評価(達成率100%以上⇒○, 100%未満90%以上⇒△, 90%未満⇒×)

作成日 2021年8月30日

※1 売上原単位評価は、基準年の売上金額を100%として本年度の売上金額の割合を算出し、売上原単位評価の達成率に反映させて評価を行う

総CO2排出量の削減(kg-CO2)							評価(問題点)	
工場	総量評価				売上原単位評価		全社:総量と売上原単位共に目標達成 未達となった松野工場は電力とガソリンの使用量が増加 高橋工場は電力の削減が大きく、達成率が高くなっている 是正処置及び予防処置 総量の割合は電力が多く占めている(約7割) 使用量が増える夏に対策を行う CO2排出量がより分かり易くなるように新しい指標での管理グラフ作成を検討 代表者コメント 全社評価にて目標達成 今後は、新しい指標(売上/面積/人と比較)にて 省エネルギーへの進捗状況を把握できるしくみを造りたい	作成 永野 検印 
	目標	実績	達成率	評価	達成率	評価		
飯田	95,664	80,282	119%	○	122.9%	○		
下野	94,767	85,630	111%	○	114.1%	○		
松野	62,067	66,258	94%	△	96.6%	△		
高橋	74,352	48,353	154%	○	158.6%	○		
内田	13,306	12,974	103%	○	105.8%	○		
九州	57,095	46,701	122%	○	126.1%	○		
全社	399,452	340,198	117%	○	121.1%	○		

電力使用量の削減(kg-CO2)							評価(問題点)	
工場	総量評価				売上原単位評価		全社:総量と売上原単位共に目標達成 松野は切断機の稼働が増え目標達成を阻害 繁忙期の残業を抑えたが未達となった 高橋は目標年以降の変化(設備撤去、エアコン買い替え、レイアウト変更)の効果が 是正処置及び予防処置 電力使用のピークとなる夏に向け、エアコンの劣化した配管カバーの補修及び 室外機への散水装置を試用し冷房効率UPを狙う 代表者コメント 省エネタイプのエアコン買い替えの効果が確認できた デマンドシステムを活用し、運用面での有効性向上を目指す	作成 永野 検印 
	目標	実績	達成率	評価	達成率	評価		
飯田	58,460	48,642	120%	○	124.0%	○		
下野	59,382	48,808	122%	○	125.5%	○		
松野	39,326	43,642	90%	△	92.9%	△		
高橋	70,817	43,514	163%	○	167.8%	○		
内田	13,306	12,974	103%	○	105.8%	○		
九州	57,095	42,988	133%	○	137.0%	○		
全社	284,803	240,567	118%	○	122.1%	○		

軽油投入量の削減(kg-CO2)							評価(問題点)	
工場	総量評価				売上原単位評価		全社:総量と売上原単位共に目標達成 九州は工場移転によって主要取引先との距離(片道)が14km⇒3kmになったことに加え 内職便が削減された結果、軽油・ガソリン共に高い達成率となった 是正処置及び予防処置 毎月の実績配信を継続(車種毎の燃料投入量、金額、燃費等) 各工場にて配送ルート見直し等を行う 代表者コメント 効率よく車を動かすためのテクニック(知識と技術)を身に付け、燃費と 安全運転の両立を目指す	作成 永野 検印 
	目標	実績	達成率	評価	達成率	評価		
飯田	26,845	26,842	100%	○	103.1%	○		
下野	18,975	12,831	148%	○	152.5%	○		
松野	21,452	19,845	108%	○	111.5%	○		
高橋								
内田								
九州	2,775	461	602%	○	621.2%	○		
全社	70,048	59,979	117%	○	120.4%	○		

ガソリン投入量の削減(kg-CO2)							評価(問題点)	
工場	総量評価				売上原単位評価		全社では目標達成 未達の3工場は目標年以降にガソリン車が増えている(下野5台⇒6台、松野/高橋1台⇒2台) 内職便や遠方への訪問が多かったことも未達の原因 是正処置及び予防処置 軽油と同様の活動を実施 代表者コメント ガソリン消費を年間を通じ計測が完了、グラフで可視化された情報の特長を 捉え、データ分析を進める	作成 永野 検印 
	目標	実績	達成率	評価	達成率	評価		
飯田	10,358	4,798	216%	○	222.7%	○		
下野	16,411	23,991	68%	×	70.5%	×		
松野	1,289	2,771	47%	×	48.0%	×		
高橋	3,535	4,839	73%	×	75.3%	×		
内田								
九州	10,808	3,252	332%	○	342.8%	○		
全社	44,601	39,651	112%	○	116.0%	○		

焼却ゴミ排出量の削減(t)							評価(問題点)	
工場	総量評価				売上原単位評価		下野のみ大きく未達 目標年に計量がきちんと行われていなかったことが原因 呼びかけ及び指導の結果、定着化し今年度は本来の姿が見えている 是正処置及び予防処置 全工場で計量を継続 焼却ゴミに限らず分別に問題がある場合は、分かり易く伝える工夫をし周知する 代表者コメント ゴミ全体の分別指示であるサイクル別表に対し、的を絞った教育を 実施し理解を深めることで、更なる適正処置及び再生利用を促進する	作成 永野 検印 
	目標	実績	達成率	評価	達成率	評価		
飯田	783.8	552.0	142%	○	146.4%	○		
下野	112.5	1,050.3	11%	×	11.0%	×		
松野	380.2	218.6	174%	○	179.4%	○		
高橋	358.9	120.0	299%	○	308.5%	○		
内田	1.9	0.0	排出なし	○	排出なし	○		
九州	373.5	165.6	226%	○	232.6%	○		
全社	2,010.8	2,106.5	95%	△	98.4%	△		

評価(前年比100%未満⇒○, 100%以上⇒×)

水道投入量の削減(m³)					評価(問題点)		作成
工場	総量評価				用途は生活用水のみ(お茶くみ、トイレ等) 前年度より減少		永野
全社	前年実績	当年実績	前年比	評価	是正処置及び予防処置		
	2,303	1,992	86%	○	ポスターや全体ミーティングでの呼びかけを継続		
	売上原単位評価				前年比	評価	検印
			84%	○	代表者コメント		
	「水は無限ではない貴重な資源」の理解を深めた上で節水に対する教育を実施する						

製品への配慮			作成
評価(問題点)		是正処置及び予防処置	代表者コメント ①製品配慮の内容を充実させること 永野 検印 
①環境負荷物質の調査		①問題なく納期通り提出済み	
化学物質の適正量把握			代表者コメント ①法令順守で適正量の把握を継続すること 
評価(問題点)		是正処置及び予防処置	
①現在該当なし		①必要となった場合は生産の動向に合わせて最低限の購入量に調整	

7. 次年度の取組み内容

次年度以降の中長期環境経営目標は、2017年度を基準とし
2021年度=-4%、2022年度=-5%、2023年度=-6%とする

次年度の環境経営活動内容を示す

作成日 2021年 6月 10日

(1) 二酸化炭素排出量削減 電気使用量の削減

- ① エアコン設定温度(夏28℃・冬18℃)
- ② エアコンフィルターの清掃
- ③ 扇風機適正配置
- ④ 休み時間消灯実施(昼・3時)
- ⑤ コンプレッサーの昼休み停止
- ⑥ コンプレッサーフィルター清掃
- ⑦ 蛍光灯型LEDの導入検討
- ⑧ 省エネ機器への買換検討(空調機器、コンプレッサー 等)
- ⑨ 電力の消費量の可視化(グラフ化等)
- ★ ⑩ 新たな指標(売上/面積/人、等)での消費量の可視化
- ★ ⑪ デマンド値見直し
- ★ ⑫ エアコン室外機への散水冷却

(2) 二酸化炭素排出量削減 軽油・ガソリン投入量の削減

- ① 集配ルートの見直し
- ② 臨時集配便の削減
- ③ 日常点検整備
- ④ 集配時のアイドリングストップ
- ⑤ 社用車の車両別の燃費管理(毎月)
- ⑥ カーエアコンの適切な温度設定と使用時間の管理
- ★ ⑦ 新たな指標(売上/面積/人、等)での消費量の可視化

(3) 廃棄物排出量削減

- ① 裏紙の再利用徹底
- ② 分別パトロールによる個別指導
- ③ 個人ゴミの持ち帰り
- ④ 分別表示の見直し
- ⑤ ゴミが地球に与える悪影響を教育し、分別意識を高める
- ★ ⑥ 九州佐賀工場 分別の全面見直し
- ★ ⑦ ゴミの分別に対し、的を絞った教育を実施し理解を深める

(4) 工場毎に特化した活動の展開、記録

- ① 各工場に特化した活動の定着化

(5) 排水量削減(水道投入量の削減)

- ① 節水の定期指導
- ② 水の大切さを教育し、節水(水のリデュース)意識を高める

(6) 製品の環境配慮

- ① 環境負荷物質調査の対応
- ② 全社に向け状況の周知

(7) 環境に関する幅広い基本知識の習得

- ① 環境に関する幅広い知識を礎とし環境問題に積極的に取り組む”人づくり”

★・・・次年度新規取り組み内容

8. 環境関連法規等の取りまとめ

作成日:2021年8月4日

区分	法令等の名称	該当する 条項等	遵守事項又は規制基準	備考	該当:○ 非該当:ー					
					飯 田	下 野	松 野	高 橋	内 田	九 州
	〇騒音規制法	第5条	規制基準遵守義務		○	○	○	○	○	○
		第6条	特定施設設置届出		○	○	○	○	○	○
		第8条	特定施設の変更届		○	○	○	○	○	○
	静岡県生活環境保全条例	第50条	規制基準値の遵守義務	第4種区域:高橋 以外:第2種区域	○	○	○	○	○	○
		第53条	特定施設設置届出	空気圧縮機15kw 台 送風機7.5kw 台	○	○	○	○	○	○
	〇振動規制法	第5条	規制基準遵守義務		○	○	○	○	○	○
		第6条	特定施設(施行令別表第1)の届出		○	○	○	○	○	○
		第8条	特定施設の変更届		○	○	○	○	○	○
	静岡県生活環境保全条例	第79条	規制基準値の遵守義務	第2種区域:高橋 以外:第1種区域	○	○	○	○	○	○
		第80条	特定施設設置届出	空気圧縮機15kw 2台	○	○	○	○	○	○
	〇浄化槽法	第5条	設置または変更時の届出	浄化槽	○	○	○	ー	○	ー
		第7条	水質検査	4回/年	○	○	○	ー	○	ー
		第8条	保守点検	同上	○	○	○	ー	○	ー
		第9条	清掃	1回/年	○	○	○	ー	○	ー
		第11条	定期検査	同上	○	○	○	ー	○	ー
	〇廃棄物の処理及び清掃に 関する法律(廃棄物処理法)	第2条	国民の責務	排出抑制・分別徹底・再生利用	○	○	○	○	○	○
		第3条	事業者の責務(適正処理・排出の抑制)	排出抑制・分別徹底・再生利用	○	○	○	○	○	○
		第5条	清潔の保持(土地・建物の清潔維持)	廃棄物置き場	○	○	○	○	○	○
		第6条2	一般廃棄物運搬及び処理委託業者	収集運搬及び処理業者に委託	○	○	○	○	○	○
		第12条2項	廃棄物の適正保管	保管基準遵守、保管場所表示	○	○	○	○	○	○
		第12条5項	産業廃棄物の委託処理	収集運搬、処分許可業者への委託	○	○	○	○	○	○
		第12条6項	運搬又は処分委託時の処置基準遵守	処理業者、処分業者との契約締結	○	○	○	○	○	○
		第12条7項	運搬又は処分の適正化確認	最終処分場現地確認	○	○	○	○	○	○
		第12条3第1項	マニフェスト交付		○	○	ー	○	ー	ー
		第12条3第2項	マニフェスト保管	A票 5年間保管	○	○	ー	○	ー	ー
		第12条3第6項	マニフェスト保管	B2、D、E票 5年間保管	○	○	ー	○	ー	ー
		第12条3第7項	マニフェスト交付状況の知事報告	6月30日迄に提出	○	○	ー	○	ー	ー
		第12条3第8項	マニフェスト写し送付の適切措置の実施	D、E票の期間内返却	○	○	ー	○	ー	ー
	〇ポリ塩化ビフェニル廃棄物の 適正な処理の推進に関する 特別措置法(PCB処理法)	第2条	事業者の責務(PCB廃棄物の適正処理)	現在、専門機関にて該当の有無を確認中						
		第8条	保管の届出							
		第10条	期限内の処理							
		第17条	譲渡し及び譲受けの制限							
	〇容器包装に係る分別収集及び再商品化の 促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)	第4条	事業者及び消費者責務(分別排出・再商品化推進)		○	○	○	○	○	○
	〇特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	第6条	事業者及び消費者責務(特定家庭用機器の排出抑制及び廃棄時の収集運搬ルール遵守)	TV、冷蔵庫、エアコン廃棄時の リサイクル費用支払い	○	○	○	○	○	○
	〇使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	第5条	自動車の所有者の責務		○	○	○	○	○	○
		第8条	自動車の廃棄・使用済自動車の引渡義務		○	○	○	○	○	○
	〇資源の循環的利用等の推進 静岡県生活環境保全条例	第73条	使用済自動車の業者への引渡し	廃車時のリサイクル料金の支払い	○	○	○	○	○	○
		第111条	事業者の責務・廃棄物発生の抑制、分別、再利用、再生利用		○	○	○	○	○	ー
	〇特定化学物質の環境への排出量の把握等 及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)	第4条	事業者の責務(化学物質管理指針に留意し使用)		ー	ー	ー	ー	ー	ー
		第5条	排出量把握・届出(質量1トン以上)	第1種指定物質年間量1トン以下の為、届出不要	ー	ー	ー	ー	ー	ー
		第107条	排出の抑制に関する施策の推進		ー	ー	ー	ー	ー	ー
	静岡県生活環境保全条例	第108条	指定化学物質の適正管理等		ー	ー	ー	ー	ー	ー
	〇ELV規制		鉛、カドミウム、水銀、クロム非含有製品の納入		○	○	○	○	○	○
	〇REACH規制		リーチ適合材料製品の納入		○	○	○	○	○	○
	〇フロン類の使用の合理化及び 管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	第16条	点検、修理、再充填履歴の記録・保存	パッケージエアコン	○	○	○	○	○	○
		第18条	管理者判断基準 点検の実施	簡易点検:1回/3ヶ月、定期点検:1回/3年	○	○	○	○	○	○
		第37条	再充填の適正化		○	○	○	○	○	○
		第39条	回収の義務		○	○	○	○	○	○
	〇消防法	第9条4	少量危険物及び指定可燃物の貯蔵及び取扱い基準		ー	ー	ー	ー	ー	ー
		第13条	危険物取扱い作業時の保安監督		ー	ー	ー	ー	ー	ー
		第17条3	消防用設備点検・報告	消火器、自動火災報知機	○	○	○	○	○	○
		第18条	消防用設備の損壊禁止		○	○	○	○	○	○
		第21条	検定合格消防用設備の設置	消火器、自動火災報知機	○	○	○	○	○	○
	〇労働安全衛生法	令第21条	自動火災報知機の設置	自動火災報知機	○	○	○	○	○	○
		第3条	事業者等の責務		○	○	○	○	○	○
	〇労働安全衛生規則	第20条	事業者の講ずべき措置等		○	○	○	○	○	○
		第34条の2-8	危険物及び有害物に関する規制	安全データシート(SDS)の運用	○	○	○	○	○	○
	〇自動車等の使用に伴う 環境への不可の低減 静岡県生活環境保全条例	第103条	環境への負荷が少ない自動車の購入		○	○	○	○	○	ー
		第104条	自動車等の効率的な使用		○	○	○	○	○	ー
		第105条	駐車時のエンジン停止		○	○	○	○	○	ー
責 務 ・ 努 力	〇環境基本法	第8条	事業者の責務(ばい煙、汚水、廃棄物等の処理その他の公害防止、自然環境の保全に必要な処置を講ずる。製品の使用又は廃棄による環境への負荷の低減に努める)		○	○	○	○	○	○
	〇地球温暖化対策の推進に関する法律	第5条	事業者の責務(温室効果ガス排出の抑制に努める)		○	○	○	○	○	○
	〇循環型社会形成推進基本法	第11条	事業者の責務(廃棄物なることの抑制)		○	○	○	○	○	○
		第12条	国民の責務(循環型社会の形成促進と協力)	廃棄物の3R及び適正処理の推進	○	○	○	○	○	○
	〇資源の有効な利用の促進に 関する法律(資源有効利用促進法)	第4条	事業者等の責務(再生資源及び再生部品を利用)	パソコン	○	○	○	○	○	○
	〇国等による環境物品等の調達の推進等 に関する法律(グリーン購入法)	第5条	事業者及び国民の責務(積極的な環境物品調達)	エコ製品(事務用品、省エネ製品等)	○	○	○	○	○	○

義務:守らなければいけないこと 責務:義務の場合のように具体的な行為ではなく、抽象的・総合的な政策的行為

【参考】
※法の最新情報 [e-Gov http://law.e-gov.go.jp/](http://law.e-gov.go.jp/)
(e-Gov:総務省行政管理局運営の総合的行政情報ホームページ)

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況

該当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありません。
関係機関からの指摘、利害関係からの訴訟も過去3年間ありません。

評価日:2021年8月4日

評価者:永野

区分	法令等の名称	該当する 条項等	遵守事項又は規制基準	備考	○:遵守 ×:非遵守 -:非該当					
					飯 田	下 野	松 野	高 橋	内 田	九 州
	○騒音規制法	第5条	規制基準遵守義務		○	○	○	○	○	○
		第6条	特定施設設置届出		○	○	○	○	○	○
		第8条	特定施設の変更届		○	○	○	○	○	○
	静岡県生活環境保全条例	第50条	規制基準値の遵守義務	第4種区域:高橋 第2種区域:高橋以外	○	○	○	○	○	○
		第53条	特定施設設置届出	空気圧縮機15kw 台 送風機7.5kw 台	○	○	○	○	○	○
	○振動規制法	第5条	規制基準遵守義務		○	○	○	○	○	○
		第6条	特定施設(施行令別表第1)の届出		○	○	○	○	○	○
		第8条	特定施設の変更届		○	○	○	○	○	○
	静岡県生活環境保全条例	第79条	規制基準値の遵守義務	第2種区域:高橋 第1種区域:高橋以外	○	○	○	○	○	○
		第80条	特定施設設置届出	空気圧縮機15kw 2台	○	○	○	○	○	○
	○浄化槽法	第5条	設置または変更時の届出	浄化槽	○	○	○	-	○	-
		第7条	水質検査	4回/年	○	○	○	-	○	-
		第8条	保守点検	同上	○	○	○	-	○	-
		第9条	清掃	1回/年	○	○	○	-	○	-
		第11条	定期検査	同上	○	○	○	-	○	-
	○廃棄物の処理及び清掃に 関する法律(廃棄物処理法)	第2条	国民の責務	排出抑制・分別徹底・再生利用	○	○	○	○	○	○
		第3条	事業者の責務(適正処理・排出の抑制)	排出抑制・分別徹底・再生利用	○	○	○	○	○	○
		第5条	清潔の保持(土地・建物の清潔維持)	廃棄物置き場	○	○	○	○	○	○
		第6条2	一般廃棄物運搬及び処理委託業者	収集運搬及び処理業者に委託	○	○	○	○	○	○
		第12条2項	廃棄物の適正保管	保管基準遵守・保管場所表示	○	○	○	○	○	○
		第12条5項	産業廃棄物の委託処理	収集運搬、処分許可業者への委託	○	○	○	○	○	○
		第12条6項	運搬又は処分委託時の処置基準遵守	処理業者、処分業者との契約締結	○	○	○	○	○	○
		第12条7項	運搬又は処分の適正化確認	最終処分場現地確認	○	○	○	○	○	○
		第12条3第1項	マニフェスト交付		○	○	-	○	-	-
		第12条3第2項	マニフェスト保管	A票5年保管	○	○	-	○	-	-
		第12条3第6項	マニフェスト保管	B2、D、E票の5年保管	○	○	-	○	-	-
		第12条3第7項	マニフェスト交付状況の知事報告	6月30日迄に提出	○	○	-	○	-	-
		第12条3第8項	マニフェスト写し送付の適切措置の実施	D、E票の期間内返却	○	○	-	○	-	-
	○容器包装に係る分別収集及び再商品化の 促進等に関する法律(容器包装リサイクル法)	第4条	事業者及び消費者責務(分別排出・再商品化推進)		○	○	○	○	○	○
	○特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)	第6条	事業者及び消費者責務(特定家庭用機器の排出 抑制及び廃棄時の収集運搬ルール遵守)	TV、冷蔵庫、エアコン廃棄時の リサイクル費用支払い	○	○	○	○	○	○
	○使用済自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	第5条	自動車の所有者の責務		○	○	○	○	○	○
		第8条	自動車の廃棄・使用済自動車の引渡義務		○	○	○	○	○	○
		第73条	使用済自動車の業者への引渡し	廃車時のリサイクル料金の支払い	○	○	○	○	○	○
	○資源の循環的利用等の推進 静岡県生活環境保全条例	第111条	事業者の責務・廃棄物発生の抑制、分別、再利用、再生利用		○	○	○	○	○	-
	○特定化学物質の環境への排出量の把握等 及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR法)	第4条	事業者の責務(化学物質管理指針に留意し使用)		-	-	-	-	-	-
		第5条	排出量把握・届出(質量1トン以上)	第1種指定物質年間量1トン以下の為、届出不要	-	-	-	-	-	-
		第107条	排出の抑制に関する施策の推進		-	-	-	-	-	-
		第108条	指定化学物質の適正管理等		-	-	-	-	-	-
	○ELV規制		鉛、カドミウム、水銀、クロム含有製品の納入		○	○	○	○	○	○
	○REACH規制		リーチ適合材料製品の納入		○	○	○	○	○	○
	○フロン類の使用の合理化及び 管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	第16条	点検、修理、再充填履歴の記録・保存	バkker-ジェアコン	○	○	○	○	○	○
		第18条	管理者判断基準 点検の実施	簡易点検:1回/3ヶ月、定期点検:1回/3年	○	○	○	○	○	○
		第37条	再充填の適正化		○	○	○	○	○	○
		第39条	回収の義務		○	○	○	○	○	○
	○消防法	第13条	危険物取扱い作業時の保安監督		-	-	-	-	-	-
		第17条3	消防用設備点検・報告	消火器、自動火災報知機	○	○	○	○	○	○
		第18条	消防用設備の損壊禁止		○	○	○	○	○	○
		第21条	検定合格消防用設備の設置	消火器、自動火災報知機	○	○	○	○	○	○
		令第21条	自動火災報知機の設置	自動火災報知機	○	○	○	○	○	○
	○労働安全衛生法	第3条	事業者等の責務		○	○	○	○	○	○
		第20条	事業者の講ずべき措置等		○	○	○	○	○	○
	○労働安全衛生規則	第34条の2-8	危険物及び有害物に関する規制	安全データシート(SDS)の運用	○	○	○	○	○	○
	○自動車等の使用に伴う 環境への不可の低減 静岡県生活環境保全条例	第103条	環境への負荷が少ない自動車の購入		○	○	○	○	○	-
		第104条	自動車等の効率的な使用		○	○	○	○	○	-
		第105条	駐車時のエンジン停止		○	○	○	○	○	-
責 務 ・ 努 力	○環境基本法	第8条	事業者の責務(ばい煙、汚水、廃棄物等の処理その他の公害防 止、自然環境の保全に必要な処置を講ずる。製品の使用又は廃 棄による環境への負荷の低減に努める)		○	○	○	○	○	○
	○地球温暖化対策の推進に関する法律	第5条	事業者の責務(温室効果ガス排出の抑制に努める)		○	○	○	○	○	○
	○循環型社会形成推進基本法	第11条	事業者の責務(廃棄物なることの抑制)		○	○	○	○	○	○
	○資源の有効な利用の促進に 関する法律(資源有効利用促進法)	第12条	国民の責務(循環型社会の形成促進と協力)	廃棄物の3R及び適正処理の推進	○	○	○	○	○	○
		第4条	事業者等の責務(再生資源及び再生部品を利用)	パソコン	○	○	○	○	○	○
	○国等による環境物品等の調達の推進等 に関する法律(グリーン購入法)	第5条	事業者及び国民の責務(積極的な環境物品調達)	エコ製品(事務用品、省エネ製品等)	○	○	○	○	○	○

【参考】

※法の最新情報 [e-Gov http://law.e-gov.go.jp/](http://law.e-gov.go.jp/)
(e-Gov:総務省行政管理局運営の総合的行政情報ポータルサイト)

10. 代表者による全体の評価及び見直し・指示

(活動期間: 2020年 6月 ～ 2021年 5月)

1. 見直しおよび変更指示

作成日 2021年 8月 30日

項 目	変更要否	変 更 内 容
環境経営方針	否	変更無し
環境経営目標	要	次年度以降の中長期環境経営目標は、2017年度を基準とし2021年度=-4%、2022年度=-5%、2023年度=-6%とする
環境経営計画	要	新たな指標でCO2排出量を可視化するしくみを導入
環境経営システム	否	変更無し

2. 個別評価

項 目	評 価
環境への負荷の自己チェック	新しい指標(売上/面積/人と比較)にて省エネルギーへの進捗状況を把握できるしくみを造りたい
環境への取組の自己チェック	各工場に特化した情報を共有化することで、好ましい効果を拡大していきたい
環境経営目標達成状況	全体目標は達成できたが項目毎に捉えると「ガソリン投入量」への達成率が低い、2020年度のデータ分析をし課題を上げ改善施策
環境経営計画の達成状況	新規取組の項目も含め計画通りの活動ができた 小刻みにPDCAを繰り返し改善活動を強化すること
環境関連法規等の遵守状況	該当する環境関連法規について遵守している 常に情報を収集・整理して要求事項を的確に把握し対応をすること
教育・訓練の実施状況	事務局と副環境管理責任者の知識を深め、各工場の特色・ニーズにあった教育を実施する
外部とのコミュニケーションの状況	苦情や要望事項等はない 地域貢献を強化
内部監査の状況	監査チェックシートに基づき、PDCAの観点から監査を実施、指摘事項の実施責任者を明確にしフォローアップ
緊急事態の対策と準備	環境上の緊急事態への準備及び対応へのプロセスを確立する
規定類・手順書等の関連文書と関連記録の最新版管理	社内規格(中規-2202「文章管理規定」)に基づき維持・管理できており良好

3. 抱負

資源を大切に使い、排出を抑え、環境保全に努める
 持続可能な社会の実現に向けて自らの社会的責任を果たす
 環境に配慮した製品やサービスを社会に提供することにより、社会の環境負荷低減に貢献する
 環境に関する幅広い知識を礎とし環境に積極的に取り組む”人づくり”に取り組む

株式会社 中静工業所

代表取締役社長 名倉 光雄

